# キャンパス・アジア留学報告書

教養学部文科２類２年
松井拓海

## はじめに

私は 2018 年 2 月から 2019 年 1 月までキャンパスアジアプログラムで、北京大学に交換留学しました。プログラム自体は半年で一区切りなので、前半(2018 年 2 月から 2018 年 7 月)については、また別の体験記にまとめました。

今回の留学体験記は主に、後半(2018 年 9 月から 2019 年 1 月)についてのものです。(前半(2018 年 2 月から 2018 年 7 月まで)はこちら http://campus-asia.c.u-tokyo.ac.jp/wp-content/uploads/2018/09/pekin.matsui.pdf) 宿舎が留学生寮から中国人の本科生と同じ寮になったこと以外、プログラムの内容自体の大きな違いはそこまでありません。

*形式としては前半の留学体験記とほぼ同じ形式にしました。授業内容や授業外の活動に関しては異なるところが多いと思います。写真は増えてる。

↑紅葉の北京大学キャンパス

## 渡航前のいろいろ

### 留学をした経緯

正直にいうと、留学したきっかけは偶然です。仲の良い友人が先にこのプログラムで留学することが決まっており、その友人の紹介で追加募集の空いていた枠に応募しました。事前から北京大学に留学することを念頭に準備をしていなかったので、中国語は大学一年生の初級中国語で勉強したきりになっており、留学が決まってから出発するまではとにかく中国語の復習に時間を割きました。

### 留学をした目的

私が留学をしたのは日本と地理的には近いようで、人口も政治体制も経済発展も全然違うように見える中国という国を通して、自分が生まれた日本という国を相対化したいという思いがあったからです。別に欧米諸国でもよかったのですが、どちらかというと中国の方が欧米諸国よりも得体がしれない、という好奇心と、あとはキャンパス・アジアを選択するという偶然の結果、中国を通して日本を見てみることにしました。 ただ、表層的な習慣習俗の違いだけを知って満足するのでは異文化理解とは言い難いと感じ、 現地の学生だけでなく様々な中国人とのコミュニケーションを通して中国社会を理解して見たいと思いました。

3 月の半ばに東大の体験活動プログラムに同伴して、北京の日本大使館で横井大使にお会いした時に、大使のおっしゃった「中国を理解する」という言葉の意味がわからず、困惑した覚えがあります。つまるところ、私の一年間の交換留学は、どうしたらそういう感覚を得ることができるのか、国家/社会を感じる/理解するとはどういうことなのか、ということを考えた一年だった、と言ってもいいと思います。

自分の中国語のレベルから言っても半年では学べるものは多くないと思い、思い切って一年に留学を延長し、前半は主に中国語の習得に力を注ぎました。結果無事、5 月半ばに受験した HSK 6 級の試験で及第点と言われる 6 割を上回ることができました。少し中国語に自信がついたので、夏休みに一時帰国した際には、日本語で本を読み、もう一度中国で何を勉強したいのか少し考えてから、後半は授業の履修を増やし、また学外での活動を増やしました。

### その他：東大の留学制度などに関して

・単位認定は前期教養学部に関してはできないということでした。 2 年の後期に留学した場合は、後期に進学する学部(文学部)の換算はできないということです。私の場合は、2 A に受けるべき必修科目を 3 A に履修することにしました。

・キャンパス・アジア留学は一般的に中国政府からの奨学金(月 5 万円くらい)に加え、申請すれば東大の半年から一年の短期奨学金(北京だと月 5 万円くらい)をもらうことができます。 僕みたいに手続きが遅れてもらい損ねることがないように、留学が決まったら早めに

申請しましょう。
ただし僕の場合は、中国側の方針の変更で、後期分の中国政府奨学金を給付されませんでした。

## 北京大学の生活について

### 授業

このプログラムでは英語、中国語問わず、北京大学で開講されるほぼ全ての授業を履修することができます。(ただし軍事理論や毛沢東の思想の授業は履修登録できませんでした。中国人の友人に頼んで聴講することはできるそうです。)

今学期はある程度中国語の授業にも自信がついたので、ある程度興味のある分野を積極的にとってみました。

履修した授業は以下の通りです。表記は授業名(学部/曜限/受講人数)の順です。

・中文報刊選読（一）(国際関係学院/月曜 1 限/30 人)*留学生向け
・社会学専題(社会学系/月曜 3 限/60 人)
・中国電影史(美術学院月曜 5 限/200 人)
・現代政治学方法：西方政治理論的転化(元培学院/火曜 3 限/15 人)
・中国当代法律和社会(法学院/水曜 2 限/30 人)
・中国社会学史(社会学系/木曜 1 限/150 人)

中文報刊選読（一）は本科の留学生向けの授業で、ある程度長くて難しめの中国語の読解の授業です。自信がついたと言っても、本当に読めているのか怪しいところもあったので、中国語の読解をノンネイティブ向けにやる授業ということで履修しました。授業で使われる文章も改革開放に関する新聞や論考が多く、面白かったですが、学生のレベルが特段高いというわけではありません。評価方法は期末テストとレポートでした。私が履修したその他の授業は期末レポートが中心で、中国語にもじっくり時間をかけられたので、十分に考えを練ることができて良かった気がします。

社会学専題は社会学系の一年生向けの授業で、中国の社会学に関する様々なトピックのオムニバス形式の講義です。一年生向けというものの、中国社会に関する基本的な単語は知らないものばかりで、なかなか面白かったです。

中国電影史は言葉の通り中国の映画史です。中国語の練習も兼ねて、中国の動画サブスクリプションサイトに課金していたこともあり、この半年間は 20 本近い中国映画を鑑賞しました。なかなか日本では見ることのない中国映画をまとめてみるいい機会でした。期末レポートは近年公開された時代物映画 3 本の比較で、なかなか難しかったのを覚えています。

現代政治学方法：西方政治理論的転化という授業は、今年中国語訳が出版された丸山眞男の『現代政治の思想と行動』を中国語で読むというゼミ形式の授業です。日本のリベラル

な思想を中国人がどう読むのか、というところに興味があって履修しました。テキストの読解でほとんどが終わってしまったのは少し残念でしたが、イデオロギーの影響力が今よりも強かった時代の丸山の文章は、日本にいるよりも中国で読んだ方が理解しやすく、思いがけずと自分の「中国理解」の補助になって大変刺激的でした。

中国当代法律和社会は社会学専題の法学版です。いろいろな中国の社会問題やニュースを法学的/法哲学的に読み解くという授業で、日本では起こらないような事例を、日本では使われないような論理で解釈していく様子がとても面白かったです。もともと東大で法学系の授業を取ったことがなく、私に法学的な基礎がなかったことが原因かもしれませんが、教員が提示するレポート課題の議論設定をいかに中国の論理の中で理解するのか/しないのか、というある意味で政治的な考え方をさせられました。

中国社会学史は梁敬東先生という一学期に西洋社会学史と中国社会学史を開講するという化け物みたいな人ですが、前学期のランゲージパートナーがオススメしてくれたこともあり履修してみました。とはいうものの、中国近代のテキストがかなり難しく挫折してしまったことを打ちあけておきます。。

全体的に言えば、比較的レポートの量が多く、中国語ネイティブではない私にとって、中国語で調べて、日本語でまとまった文章にして、また中国語に翻訳する、という作業は骨の折れるものでしたが、かなり中国語の練習にはなったと思います。

また入門的な授業でも、それが成り立っている社会的な文脈が大きく異なるため、それを自分の中でどう消化して、どう表現するか、というのは、面白かったです。

寮生活

政府の奨学金がなくなったことで、今学期は元培学院の宿舎に中国人の学生と一緒に生活していました。*これからキャンパス・アジアプログラムを使う人でこの宿舎を使うのは限られると思います。

↑1 枚目：出国前日の宿舎。 2 枚目：これが個人用スペースです。

4 人部屋で二段ベッドが二つと、それぞれに棚と机が支給されます。私の部屋は私含めてルームメイトは 3 人でした。

シャワー、トイレ、洗濯機、洗面所はフロアで共有、シャワーのお湯と消灯が夜 11 時なのを除けば、そこまで困ることはありませんでした。

ルームメイトは夜中までゲームをやっていることと(光が眩しくて寝づらい)、喋るのが早くて聞き取れないこと以外は、気前もよく、とても良かったです。

(春節もルームメイトの実家に連れて行ってもらおうと思ったのですが、都合で帰国してしまったのが悔やまれます。)

### 元培学院の交流活動

毎学期、元培学院では学生向けに小旅行のプログラムがあり、今学期は主に留学生向けに山西省と重慶が企画されていました。私は都合が合わなかったので重慶しか参加できなかったのですが、ほぼお金出るし、友達できるし、楽しかったです。今学期の小旅行は事後課題などもありませんでした。(重慶はそんなに見所はなかったですが。)

### 学内での日本人との交流

北京大学日本人会という組織があり、国際文化祭などの企画を行なっていたのですが、あまりノリに馴染めず、参加しませんでした。

北京大学には語学学校も併設されているため、日本人の留学生も 100 以上が在籍しています。東大からも大学院合わせて 10 名程度留学しており、今学期はそうした大学院からの留学生と少し交流できたのは良かったです。

## 学外の活動

### 旅行

今学期は上海(9 月頭)、貴州(牛肉粉と酸汤鱼がおすすめ!)、杭州、上海(12 月、乃木坂のライブに行った)に行きました。実感よりも少ないですが、中国も広いので、授業だけでなく、いろいろな地域に足を伸ばすのもおすすめです。なかなか日本に住んでいるといかないような地域や農村に行けると面白そう。

他にも北京の北朝鮮レストランとかも行きました。

↑1 枚目：申し訳程度の上海の夜景　2 枚目：泊まった宿から見えた景色。

↑1 枚目：経済成長率が中国で唯一ふた桁の貴州省貴陽市　2 枚目：牛肉粉はうまい。

↑1 枚目：杭州の紅葉と西湖　2 枚目：北朝鮮レストラン

日本人学術交流会

北京在住歴の日本人で、学術寄りのコミュニティを開いている方がいます。北京大学の日本人交流会でも度々案内が来るのですが、時々面白いテーマでやっているので、気が向いたら行ってみるといいと思います。私は共産党で習近平の著作などを日本語に翻訳してい

る人の話を聞きに行きました。

後期 TLP 北京研修

これもほとんど参加できませんでしたが、後期 TLP の北京研修にも少し参加させてもらいました。私が参加したのは盘古智库というシンクタンクでの座談会だったのですが、普段中国人の中でひっそり生活している身としては、久しぶりに日本人と中国人という立場での意見交換を客観的に眺められて良かったです。

市政府向けの報告書作成のお手伝い

知り合いのツテで、ある中国の市政府の日本企業誘致に関する報告書作成の手伝いをしました。詳しくは書きませんが、中国の行政、もっと大きく言えば中国という国家がどういう仕組みで成り立っているのか、というところが間近で見られたのは良い経験でした。なかなか大学の中だけでは狭い世界なので、中国社会の異なる側面を見ることができたのは大きかったです。

一年間留学して(感想)

上に書いたようにそれなりに中国っぽい活動にも参加したし、仲の良い中国人もできたし、それなりに中国語で文章も書けるようになったし、中国映画も大体理解できるようになったし。

ただ、それらしい経験の肩書きなんてそれなりにやれば手に入ります。それに学部レベルで勉強するのならばまず日本語を使って日本でやればいいです。それに多くの学問はほとんど英語ができればオンラインで英語が読めるのだから、不用意に中国に留学する必要もない。中国でしか学べないような学問、例えば中国哲学にしても日本語である程度のレベルまでは学ぶことができるはずです。

それでも私は、留学はやっぱり意味のあるものだったと思いたい。 その理由は大きく分けると 4 つあります。

１つ目は、周りにコミュニケーションの道具である言語から人脈まで何もない状況から、一年間で自分の納得できる成果を上げるにはどうしたらいいか、常に考え実行する必要があったことです。

２つ目は、自分が生まれ育った国である日本の社会・文化をもっと知りたくなった、ということです。いかにも留学経験者っぽい感想で申し訳ないのですが、多くの中国人との交流を通じて、日本の文化というものを今までほとんど知らなかった自分が恥ずかしくなるとともに、その素晴らしいものにもっと触れてみたいという気持ちが強くなりました。また伝統的な文化だけではなく、中国においても圧倒的な人気を誇っている日本の漫画アニメ、またそれらを生んだ日本社会に関してももっと知りたいという思いが強くなりました。

３つ目は、そうした文化や習慣、言語などの違いから、社会とは何か、文化とは何か、

といった問いが膨らんだことです。簡単に言えば読みたい本が広がりました。

4 つ目は、中国が帰りたい場所になったことです。私は中国が嫌いです。でも大好きです。この相反する感情をもてる対象はそこまで多くはないはずです。例えば日本に対してもこういう感情を(そこまではっきりは意識していないけれど)もっている気がします。あとは何だろうか、恋人とか？そういった場所を今までとは違う環境につくれたのは大切な経験だったと思います。

留学を通じて私が感じたことはこの程度に止めておきたいと思います。まだ自分の中で完全に整理がついていないものもあるし、留学をしたいと思う人にとってはそこまで重要な情報ではないはずだからです。 ただ留学しようか迷っている人がいたら、是非キャンパス・アジアの留学に参加してほしいと思います。半年ないし一年の時間を投資するにはとてもいい収穫が得られるはずです。ほぼお金出ますし。